



GLOBAL MAPPING NEWSLETTER

47

ケンブリッジ会議 2007

カレン・マクグラス
英国陸地測量部法人局シニアコンサルタント



ケンブリッジ会議参加者

ケンブリッジ会議は英国の国家地図作成機関である英国陸地測量部が主催するユニークな行事で、歴史的環境に恵まれたケンブリッジのセントジョンズ・カレッジで4年ごとに開催されています。

招待者だけが参加して行われるこの行事は、世界中の国家地図作成機関や土地登記機関の長が一同に会して専門知識を共有し、情報交換を行うとともに、お互いの関心事について話し合う機会を提供しています。

2007年のケンブリッジ会議は「縮小する世界における展望の拡大」をテーマに、地理空間情報、地図作成・地籍機関の重要性、またそれらの機関業務がいかに関国の経済活動を支えているかに焦点をあてて行われました。

本会議は1928年に始められて以来、他に類を見ない行事となっており、現在では真に国際的な行事となっています。本年の会議には70カ国を超える国々から220名の代表が参加しました。

本年のプログラムには、参加者間で多くの議論ができるように魅力的、かつ豊富な情報が提供され

ました。技術がどのように我々の世界を変えているか、世界的な傾向のインパクト、また国家地図作成機関（NMAs）職員の視点などの課題が取り上げられました。

基調講演者が主要な問題点を提起し、すべての国家地図作成機関が直面する課題について新鮮な洞察を与えました。午後のワークショップ・プログラムでは、土地管理、地理情報（GI）知識ポータル、危機管理、教育や連携など、多様な話題について参加者間で広範な議論が行われました。

会議の最後に、英国陸地測量部部長兼最高経営責任者のヴァネッサ・ローレンス議長が以下の決議案を発表しました。

データ収集及び利用

- ・ データを最適な品質で収集し、あらゆる状況において適切な形で再利用することはデータ管理・利用を適切に行うための必須の原則である。
- ・ 国家地図作成機関は、自国において自らの事業を実施したり他を統率する場合において常に念頭におくべきである。



本会議

信望とステータス

- ・ 世界中の国家地図作成機関は、地理空間産業において、最も信頼のおける情報の提供者として社会に信頼される特別な地位を有する。
- ・ 国家地図作成機関は、この認識のよりどころとなる信望と行動を進歩させ続けることがきわめて重要である。

技術

- ・ 技術は、国家地図作成機関が役割を遂行する上で利用できる主要な手段のひとつである。
- ・ また、これはデータ及び地理空間成果物の収集、管理及び提供においても同様である。

- ・ 国家地図作成機関が役割を遂行するにあたっては、継続的に技術を活用することが重要である。

知識の共有

- ・ 国家地図作成機関は、共同体として継続的に知識を共有し、相互に最適な実例から学ぶことがきわめて重要である。
- ・ 本会議で議論されたインターネットによる知識ポータルへの開設と充実がその行為への鍵となり、知識の共有及び専門家の支援に貢献する。

認知度

- ・ 国家地図作成機関は、政治家、意思決定者及び一般大衆に地図の重要性を認識させるよう率先して関与すべきである。
- ・ また、学校、第三者機関及び民間における認知度を高めるべきである。
- ・ この取り組みには、報道機関も関与させるべきである。

会議は、この行事を成功させるもととなった公私にわたる広範な交流の機会を参加者に提供しました。

第 14 回地球地図国際運営委員会会合

永山 透

地球地図国際運営委員会事務局



会合参加者

ISCGM は、2007 年ケンブリッジ会議とあわせて、2007 年 7 月 14 日に英国ケンブリッジにおいて第 14 回会合を開催しました。本会合には 10 名の ISCGM 委員を含む 30 名が参加しました。

ISCGM 委員長の D. R. フレイザー・テイラー教授が本プロジェクトの主な進展と課題を取り上げ開会の言葉を述べました。その後、英国陸地測量部のヒュー・ブキャナン博士が開催機関を代表し歓迎の言葉を述べました。

会合は、開催に係る手続きに始まり、テイラー



テイラー教授とブキャナン博士

教授が議長を務めました。ジオサイエンス・オーストラリアのピーター・ホランド氏がテイラー教授により副委員長に再任されました。福島芳和 ISCGM 事務局長が、カレン・クライン博士を事務局次長に再任しました。

引き続き、福島事務局長が事務局の活動について報告しました。福島氏は前回会合以降の地球地図データ公開の急速な進展や、地球地図の新しい利用として、双方向性のテレビデオ会議システムを用いた国境を越えた学習体験の「地球地図の学校」を強調しました。

テイラー委員長と福島事務局長が臨時部会長を務めるワーキンググループ1の報告が行われました。報告では、地球地図第1版の公開と普及のための活動、公開時期、および第3期地球地図プロジェクトの戦略を提案しました。続いて審議が行われ、委員会では地球地図第1版は2008年の適切な期日に公開することが合意され、地球地図デー

タの利用者層へのアウトリーチの重要性が再確認されました。

ワーキンググループ2では、二つのコアグループ（仕様及びフォーマット）の立ち上げ、現在の仕様に関する利用者と作成者への意見調査および地球地図データのGML3フォーマットへの試験的変換など、地球地図第2版のための仕様の改訂についての活動を報告しました。最近GML3は国際標準となりましたが、参加者は、GML3は時期尚早であると感じ、GML3の普及を待ちながらGML2を次期フォーマットとして採用するよう提案しました。

ワーキンググループ4部会長の建石隆太郎教授は、全球土地被覆（GLCNMO）と全球樹木被覆率整備の進捗を報告しました。建石教授は、参加機関にこれらのデータ試作版の検証に積極的に協力するよう呼びかけました。また、委員会では、WG4活動に関し仕様の改訂に合意しました。

リエゾン機関の活動紹介の後、事務局は、普及促進のための使いやすいフォーマットでの地球地図の公開、更新の容易化やアウトリーチ向上のための地球地図の参加機関からの試験的公開、および被災地域の概要図の作成など、災害に対する活動の促進を提案しました。参加者は提案や助言を行い概ね提案に合意しました。

最後に会合の決議が全会一致で採択され、参加者は英国陸地測量部の会合開催にかかる親切な支援と用意周到な手配に感謝しました。会合は16時40分に閉会しました。



会合

第 14 回地球地図国際運営委員会会合決議（仮訳）**英国ケンブリッジ****2007 年 7 月 14 日**

1. 参加とデータ整備

- a) 地球地図国際運営委員会は、全球の陸地の 3 分の 1 以上が地球地図第 1 版で整備されたことを認識し、地球地図データ整備のための参加機関の継続的な努力と事務局の支援に感謝する。
- b) 第 13 回 ISCGM 会合以降、地球地図プロジェクトの参加国数は着実に増加しているが、未参加国の参加を奨励するためにさらなる努力が必要である。この点につき、委員、顧問、リエゾン機関や他の関連機関からこれらの国々に対し働きかけるよう提案する。
- c) 第 13 回 ISCGM 会合以降、地球地図第 1 版データの整備は著しく進展したが、整備が未完了の参加国に対し、遅くとも 2007 年 12 月までに事務局にデータを提出するよう強く奨励する。
- d) ISCGM は、地球地図データが検証中である参加機関と事務局に対し、検証作業を促進し、2007 年 12 月までに地球地図第 1 版で整備される地域をできるだけ広げるよう奨励する。
- e) ISCGM は、事務局に対し、データ公開を促進するための取り組みを奨励する。第 10 回会合の決議を念頭に、この取り組みを支援するために、ISCGM は地球地図仕様に完全に準拠していてもデータを受け入れ公開するものとする。これらのデータは非公式な地球地図データとみなされ、2008 年に公開するものとする。

2. 地球地図の公開

- a) ISCGM は、全球を整備した地球地図第 1 版を 2008 年の適切な期日に公開するよう決議する。
- b) ISCGM は、委員、参加機関や事務局が地球地図を積極的に宣伝するよう奨励する。ISCGM は、参加機関が自己のウェブサイトから地球地図データを公開する意義と必要性を認識し、当該

の参加機関と事務局が合同で、地球地図データの参加機関からの公開を検討するよう勧告する。

- c) ISCGM は、正式なフォーマットの地球地図に加え、利用者が使いやすいフォーマットによる地球地図を公開するよう決議する。

3. 地球地図アウトリーチ活動

- a) ISCGM は、日本のアウトリーチ活動に感謝するとともに、地球地図の利用促進を図るため委員は積極的にアウトリーチ活動を行うよう奨励する。
- b) ISCGM は、上記のアウトリーチ活動が、環境保護、自然災害の軽減や持続可能な開発の達成を目的とする研究や政策策定のための地球地図の広範かつ効果的な利用に結びつくことを期待する。
- c) ISCGM は、事務局と参加機関が災害の軽減、管理や予防のために行動を取るよう奨励し、委員がこれらの活動を支援するよう奨励する。

4. 戦略計画

- a) ISCGM は、WG1 の継続的な取り組みに感謝する。
- b) ISCGM は、WG1 が提案する第 3 期地球地図プロジェクトの戦略の修正に同意する。
- c) ISCGM は、委員が WG1 の取り組みを支援するよう奨励する。

5. 仕様

- a) ISCGM は、WG2 の継続的な取り組みに感謝する。
- b) ISCGM は、WG4 が WG2 を通して提案する地球地図データ仕様（バージョン 1.3）の改訂を承認する。
- c) ISCGM は、地球地図第 2 版の仕様及び形式に関するコアメンバーの取り組みに感謝し、作

業を完了するよう奨励する。

- d) ISCGM は、委員が WG2 活動を支援するよう奨励する。

6. 全球ラスターデータ

- a) ISCGM は、WG4 による全球土地被覆データ整備及び全球樹木被覆率データ整備の大きな進展を賞賛する。
- b) ISCGM は、地球地図第 1 版データ整備の完成に向けて、WG4 が報告書で提案する作業進捗手順を支持する。
- c) ISCGM は、WG4 が 2007 年 8 月から 2007 年 10 月にかけて行う中間検証作業に参加機関が積極的に対応するよう要請する。
- d) ISCGM は、委員が WG4 活動を支援するよう奨励する。

7. 人材育成

- a) 地球地図整備を促進するために人材育成が著しく重要であることを認識し、ISCGM は、日本国政府が行う地球地図パートナーシップ・プログラム、国際協力機構 (JICA)、セネガル測量局 (DTGC) など、セネガル国ダカール市における地球地図セミナーの主催者及び支援者の貢献に心から感謝する。
- b) ISCGM は、1994 年以来、毎年日本で行われている JICA 集団研修地球地図作成技術コースの役割に心から感謝する。
- c) ISCGM は、ESRI による地球地図 /GSDI グラントの実施、及び INTRGRAPH による人材育成のためのグラントに引き続き心から感謝する。
- d) ISCGM は、委員が積極的に人材育成活動に貢献するよう奨励する。

8. 関係機関との連携

- a) ISCGM は、アジア太平洋、アフリカ及び米州地域の国々の、地球地図をもとにした地域基盤データ構築に対する努力を賞賛し、これらの地域の委員に対し、地球地図プロジェクト

の持続性を強化するために、それらの地域イニシアティブとの連携を強化するよう奨励する。

- b) ISCGM は、OneGeology プロジェクトとの協力関係の樹立を歓迎し、かかる協力活動を強化するために事務局が引き続き必要な連絡をとるよう奨励する。
- c) ISCGM は、災害管理を支援する取り組みの支援のために、引き続き ICA や JBGIS と協力する。
- d) ISCGM は、国連部局、提携機関及び加盟国間での相互運用性やデータ共有の実施の促進を目指す、国連地理情報ワーキンググループ (UNGIWG) の取り組みである国連空間データ基盤 (UNSDI) を歓迎する。

9. GEO

GEOSS (全球地球観測システム) の構築における地理情報の重要性に鑑み、ISCGM は、委員、顧問、リエゾン機関やその他の関係機関に対し、地球観測に関する政府間会合 (GEO) に関する活動に積極的に関与するよう奨励する。

10. 次回会合

ISCGM は、委員と事務局が協力し、出来るだけ早期に ISCGM の次回会合の期日と開催地を決定するよう勧告する。

11. 謝辞

ISCGM は、英国陸地測量部の本会合の会場提供及び支援に心から感謝する。



セントジョンズ・カレッジ

事務局から

土地被覆データ及び樹木被覆データにかかる検証への協力について

ISCGM-WG4（ラスタデータ担当）は、2006 年に地上検証データ（土地被覆トレーニングデータ）を各国 NMO の協力により収集し、土地被覆データ及び樹木被覆データの試作版を作成しました。この試作版に対し ISCGM 事務局は 2007 年 8 月 15 日に関係 55 カ国 NMO に検証をお願いしているところであり、ご協力に対し感謝申し上げます。

なお、検証結果を反映し修正を加えた最終版は、2008 年の早い時期に完成する予定です。

ISCGM 事務局はレリーフウェブに 2 枚の地図を提供

ISCGM 事務局は、2007 年 8 月 15 日に発生したペルー沖地震への対応として、地球地図データを用いた 2 種類の同国の震源地周辺図を作成し、レリーフウェブ（ReliefWeb）（<http://www.reliefweb.int/>）に提供しました。

レリーフウェブは国連人道問題調整事務所（UNOCHA）によって運営されている、人道上の緊急事態と災害に関する情報（文書と地図）を扱うの世界最大のオンラインゲートウェイで、1996 年 10 月から開設されています。

地球地図公開と地球地図プロジェクトへの参加

2007 年 6 月 25 日に前号のニュースレターが発行されて以後、新たに 6 カ国の地球地図が公開されました。国名とデータ公開日は、グアテマラ（7 月 12 日）、アルジェリア（7 月 20 日）、レバノン（8 月 14 日）、スーダン（8 月 27 日）、ブラジル（ベクタデータ）（8 月 31 日）とインド（ベクタデータ）（9 月 13 日）です。この結果、現在、41 カ国 / 2 地域のデータが ISCGM ホームページからダウンロードできます。また、モーリシャスが 2007 年 7 月 26 日に地球地図プロジェクトに参加し、16 地域とともに 157 番目の参加国となりました。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2007 年

- ・ 10 月 28 日～ 11 月 2 日、中国、西安
第 25 回 ISO/TC 211 本会議及びワーキンググループ会合
- ・ 10 月 29 日～ 31 日、南アフリカ、ケープタウン
マップ・アフリカ 2007
- ・ 11 月 28 日～ 29 日、南アフリカ、ケープタウン
GEO-IV: 第 4 回 GEO 本会議

2008 年

- ・ 1 月 / 2 月、オーストラリア、キャンベラ
PCGIAP 理事会

- ・ 2 月 25 日～ 29 日、トリニダード、セントオーガスティン
GSDI10: 第 10 回全地球空間データ基盤会議
- ・ 5 月 29 日～ 30 日、デンマーク、コペンハーゲン
第 26 回 ISO/TC 211 本会議
- ・ 6 月 14 日～ 19 日、スウェーデン、ストックホルム
第 31 回 FIG 総会及びワーキング・ウィーク
- ・ 7 月 7 日～ 11 日、中国、北京
第 21 回 ISPRS 会議
- ・ 2 月 29 日、トリニダード、セントオーガスティン
地球地図の進捗に関する会議

編集・発行： 地球地図国際運営委員会事務局

連絡先 : 〒305 - 0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内

Tel: 029 - 864 - 6910 Fax: 029 - 864 - 6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail : sec@iscgm.org